巻頭言

ITモラル先進国を目指して

日本電気株式会社代表取締役会長　　佐々木　元

長らく未来社会の代名詞であった21世紀がいよいよ現実の世界となり、夢物語として描いたものの多くが、人類の英知と努力によって実現されるようになりました。トフラーの著書、『第三の波』でセンセーショナルに紹介された「情報化社会」は、IT社会やナレッジ・マネージメント等のキーワードとなって具現化しています。

90年代は、批判されることが多かった日本経済あるいは日本社会であったような気がしますが、昨年後半からようやく、次世代日本への萌芽が、景気の回復と共に徐々に見えてきたように思います。

我が国のITに関連して、とかく指摘されるのが、米国との格差です。最近ではアジア諸国間との競争においても、かなり追い上げられている様です。ですが私は、むしろこの状況を今後の我が国のIT社会の発展に向けて、有利に活用出来るように思えてなりません。

インターネットの普及もネットショッピング利用率も、日本においてはこれからが立ち上がりの本格期です。そこで、今の内に、是非手を打っておきたいことがあります。

それは、「ITモラル」あるいは「IT教育」の充実です。私はかねてより、ITを推進する側の立場として、ITの技術進化の側面と、それを利用する人間側のモラルや教育の隔たりの大きさに危惧を感じております。

卑近なたとえながら、例えば自動車をはじめとする交通手段やその利用に関してのモラル教育や調和のとれた諸制度等に比べ、今後の経済社会の中枢を担うべきITに関するそれらが、著しく見劣りがする、あるいは皆無に等しいとさえ思えるのです。

これは規制緩和論議とは全く次元の異なる話であり、規制緩和は進めながらも、IT利用についての国民資産としてのモラルの向上、教育の充実を是非とも実現したいと考えております。

ある調査では、デジタルデバイドによる新たな格差への脅威や、個人情報のセキュリティ確保等、ITの普及に伴う新たな社会不安が既に報告されています。またサイ

バーテロが、IT経済に引き起こす混乱は、前例がないだけにその試算すら難しいものがあります。

IT先進国と称される諸地域をみましても、IT利用に関してのモラルや教育の充実については、際だって優れた模範があるとは思えません。そこで、今我が国こそが、本当の人間社会に寄与するITのモデルを示すべく、初等教育の段階から地道なITモラル教育に取り組み始めるべきではないかと考える次第です。

本来のITの役割は、ひとりひとりの「個性の解放」と「衆知の獲得」であります。情報流通のバリアを可能な限り低くし、人間性を最大限に発揮させるためにこそITが用いられるべきなのです。

逆に用い方を誤りますと、人間性そのものがITの暴走によって浸食されてしまうといった事態も起こり得ます。一本の電子メールが一人の人間を救うこともあれば、かけがえない生命を危機にさらしてしまうこともあります。

しかしながら、ITに関する教育を充実させることで、多くの問題は解決できるはずです。その教育は決して締め付け論ではなくて、基本的には、ITによって“他者に感動を与える喜び”を根本にした教育が望まれるのではないか、と思います。

ITは決して一人孤立して用いるべきものではありません。自らの他者への働きかけを、より効果的に遂行するための手段なのです。光ファイバーケーブル他のハード的なインフラ整備と平行して、ユーザ側のITモラル教育が進めば、我が国のIT先進国としての地位は大変頼もしいものとなるでしょう。

これには総務省をはじめとする様々な省庁の参画が望まれます。ITモラルの向上という目的に各省庁の照準を合わせ、諸政策が有機的に結合すれば、この目的の他にも、産業の活性化はもとより、昨今憂慮されている日本人の基礎学力の強化にも大きな効果が期待できます。

「ITモラル先進国　日本」。こう呼ばれる日が近いことを願ってやみません。